

## 関西健康・医療創生会議の取組みについて

H27年11月19日  
関西健康・医療創生会議

### I 関西健康・医療創生会議の概要

#### 1 設立趣旨

本格的な少子高齢、人口減少社会が到来するなか、関西がもつ科学技術、文化、ものづくりの高いポテンシャルを生かして、健康長寿を達成するための新たな産業の創造、また、安心かつ健康に生活できる持続可能性のあるまちづくりを検討するために、関西における新たな産学官連携のプラットフォームとなる関西健康・医療創生会議を設立

#### 2 会員（設立時）

産業界：関西経済連合会、大阪・京都・神戸商工会議所、関西経済同友会

大学・研究機関：域内の医学部を中心とした15大学・3研究機関

行政：関西広域連合及びその構成府県市

#### 3 設立日 平成27年7月23日設立

### II 関西健康・医療創生会議の事業展開

#### 1 経緯

- (1) 関係大学等、経済団体、広域連合構成府県市に取り組むべき事業を意見照会し、事業の方向性を整理（7月23日 創生会議設立会合）
- (2) 優先課題を定め、課題ごとに分科会を設置（8月25日 常任幹事会）
- (3) 分科会ごとに会長を定め、リーダー間で意見調整（10月27日 分科会リーダー会議）

#### 2 分科会の活動

別紙資料1「分科会活動について」参照

分科会⑤（人材育成）については、事業内容を今後調整

#### 3 今後の展開方向・案

- (1) 分科会を中心に活動（各分科会の事務運営については、構成府県市が分担してサポート）
  - 分科会ごとに事業実施内容を作成、セミナー・研究会を実施し普及啓発
  - 分科会における役割
    - ・行政：国等への制度提案、関西広域全体または特定地域での社会実験の場の提供等
    - ・産業界：共同研究への参加・資金提供、新産業の振興に向けた組織の設置等
  - 分科会の活動実績等については、毎年度、分科会会長から常任幹事会や広域連合へ報告
- (2) 設立記念シンポジウムを開催（12月22日）（別紙資料2「設立記念シンポジウム」参照）
  - 分科会への参画を呼びかけ
  - 工学系アカデミア、企業、自治体(市町村含む)の参画を期待
- (3) 共同研究等の外部資金の受け皿、大規模イベントの実施主体となる組織の設置検討



## 分科会活動について

(別紙資料1)

### 分科会① 医療情報

分科会会長	吉原博幸 京都大学名誉教授、宮崎大学理事（医学部附属病院長）
副会長	松村泰志 大阪大学医学系研究科教授
アドバイザー候補	千原國宏・奈良先端科学技術大学院大学名誉教授、鈴木正朝・新潟大学法学部教授、黒田知宏・京都大学医学部附属病院教授、清水央子・東京大学薬学系研究科特任講師、坂田恒昭・大阪大学基礎工学研究科特任教授
趣 旨	大規模な健康・診療データを共同でクラウド化して集約し、診療や予防医療の研究、創薬・健康等のビジネスに役立てる仕組みを構築
実施内容案	○国プロジェクト（千年カルテプロジェクト）を関西地域で先導的に実施 ・関西の大学病院等の参加を得て、EHR データ（健康電子記録）を共同利用センターに集約化（検査・投薬データの共有を含む） ○匿名化データの大学・企業の研究・ビジネスへの利用
期待される効果	・電子カルテ等の医療情報が広域で集約されるため、機関相互の利用、さらに二次利用が促される。 ・ウェアラブルセンサ情報を含む健康情報の収集とその医療情報への連結により、健康長寿への反映や健康ビジネスへの活用が期待される
産業分野での効果	・医療記録、データベース整備などのシステム開発、人工知能・匿名化技術の開発 ・データの2次利用による製薬開発、ヘルスケアビジネス等の促進
行政分野での効果	・地域住民の先制医療による健康長寿化 （地域医療費、介護費の抑制等）
行政への期待	・データ利活用に伴う個人情報保護など法制度との調整、国等への制度提案 ・国家戦略特区を活用した規制緩和等によるビジネス環境の整備

### 分科会② 遠隔医療

分科会会長	真鍋俊明 京都大学名誉教授、滋賀県立成人病センター総長
副会長	峰松一夫 国立循環器病研究センター副院長 梶 龍兒 徳島大学教授（ヘルスバイオサイエンス部）
アドバイザー候補	中西憲司・兵庫医科大学長、村田晋一・和歌山県立医大教授（人体病理学）、伊藤智雄・神戸大学医学研究科教授、佐々木毅・東京大学医学部附属病院センター長、永田 啓・滋賀医科大学教授
趣 旨	病理診断の省力化、迅速化、情報の共有化を図るため、①ICT を活用した医療機関ネットワークの形成と正確な診断、②病理診断の確立とデータベースの構築
実施内容案	○滋賀県が整備した全県遠隔病理診断ネットワークシステムを広域的に展開 ○国立循環器病センターが開発した脳血管障害の早期遠隔診療システムを広域的に展開 ・遠隔病理診断、不整脈チェックによる遠隔指導など包括的医療連携 ・医療関係者、企業研究者など人的ネットワークと医療機器、運用ソフトなど物理的ネットワークの形成
期待される効果	・地域医療の喫緊の課題である地域間の医療格差の是正（例：病理医の偏在） ・ICT 等を活用した遠隔診断技術の導入による診断の迅速化
産業分野での効果	・遠隔診断システムの開発（ICT、画像診断機器）、デジタル病理サンプルデータベースの構築 ・分科会①の医療情報システムとの連携
行政分野での効果	・地域間の医療格差の是正 （病理医の偏在の是正、遠隔診断による診断の迅速化）
行政への期待	・遠隔病理診断システムの広域展開（病院間ネットワーク形成、人材の共同育成） ・早期遠隔治療システムの地域および広域での導入

### 分科会③ 少子高齢社会のまちづくり

分科会会長	細井裕司 奈良県立医科大学理事長・学長
副会長	嘉名光市 大阪市立大学工学研究科准教授
アドバイザー候補	辻 哲夫・東京大学特任教授、梅田智広・奈良県立医大教授
趣 旨	医学の知識をまちづくりに活かす「MBT(医学を基礎とするまちづくり)」を推進し、少子高齢社会を解決するモデルを構築
実施内容案	○奈良県立医大が橿原市で展開するまちづくりのノウハウを広域的に展開 ・高齢者が住みやすい都市の計画づくり ・ロボットやICT等を活用した住空間の整備、新製品・新事業の検討 ○「奈良県立医大モデル」の大都市への適用検討 ○他地域での健康まちづくりの推進
期待される効果	医学の知識が都市づくりや新製品・新事業づくりに十分反映される
産業分野での効果	・快適な都市空間実現に向けた新ビジネスの創出（健康ビジネス等） ・医学的知識や医学的サポートによる新製品・新事業の開発
行政分野での効果	自治体に応じたモデルを使った少子高齢社会のまちづくり
行政への期待	奈良県立医大モデルの他都市への展開（社会実験の場の提供）

### 分科会④ 認知症への対策

分科会会長	前田 潔 神戸大学名誉教授、神戸学院大学教授
副会長	田中稔久 大阪大学医学系研究科准教授
アドバイザー候補	松下正明・東京大学名誉教授、中島健二・鳥取大学医学部教授、篠崎和弘・和歌山県立医科大学教授、成木 迅・京都府立医科大学准教授、古和久朋・神戸大学医学部附属病院准教授、福山秀直・京都大学特任教授、猪原匡史・国立循環器病研究センター医長、渡辺恭良・理研ライオン基盤研究センター長、今西正男・神戸市理事
趣 旨	・国の新オレンジプランに則り、全国に先行し関西での広域的な統一的な診断・治療基準を確立し、公的負担の軽減を実現 ・認知症発症・進行を抑制するため、薬剤、ヘルスケアビジネス・ロボット等を積極的導入
実施内容案	・軽度認知機能障害（MCI）の診断基準の統一・確立 ・認知症の進行を抑える早期介入、生活支援のための仕組みづくり
期待される効果	・軽度認知機能障害(MCI)の統一的な診断基準や治療方針の確立による早期診断・早期対応、重症化の抑制 ・高齢化に伴い今後激増が予測される高齢者認知症の発症抑制、発症期間の短縮
産業分野での効果	・創薬、画像診断技術、ロボット工学、人工知能技術の開発 ・認知症を予防するための新たなヘルスケア産業の振興
行政分野での効果	・認知症発症を遅らせ、軽症化できることによる介護、生活支援の軽減
行政への期待	・自治体保有データの活用、社会実験の場の提供 ・地域住民への知識の普及活動

### 分科会⑤ 人材育成

分科会会長	澤 芳樹 大阪大学医学系研究科長・医学部長
副会長	上本伸二 京都大学医学研究科長・医学部長
趣 旨	・未来の医療～精密医療～を担う人材の育成 ・地域医療・産業を支える人材の育成
実施内容案	連合大学院等の可能性検討等

## 関西健康・医療創生会議 設立記念シンポジウムの開催

**趣 旨：**平成27年7月に設立した関西健康・医療創生会議の事業について、分科会に分かれて進めようとしている各テーマの内容と進め方や目指す方向を、産業界、自治体、一般住民を対象に発表し、その取組みへの理解を広めると共に、事業に参画する企業、大学、自治体等の拡大を図る。

**日 時：**2015年12月22日(火) 14:00～16:30

**会 場：**グランフロント大阪 北館 ナレッジシアター

**定 員：**300名

**参加費：**無料

**内 容**

関西から、少子高齢社会の健康長寿を達成する新たな産業の創造、安心して健康に生活できるまちづくりを発信する関西健康・医療創生会議。

そのスタートにあたり、4つの分科会における具体的な取組みやねらいを披露し、医と産業の連携に向けた期待と展開について討論する。

### 第1部 口頭発表(14:00～15:20)

リーダーから分科会への誘い～分科会の内容、進め方、めざす方向～

- ① 第1分科会 医療情報 ～1000年カルテプロジェクト  
分科会会長 京都大学名誉教授、宮崎大学理事(医学部附属病院長) 吉原 博幸 氏
- ② 第2分科会 遠隔医療 ～通信技術による医療の質向上  
分科会会長 京都大学名誉教授、滋賀県立成人病センター総長 真鍋 俊明 氏
- ③ 第3分科会 少子高齢社会のまちづくり ～MBT(医学を基礎とするまちづくり)  
分科会会長 奈良県立医科大学 理事長・学長 細井 裕司 氏
- ④ 第4分科会 認知症への対策 ～認知症の人の視点を重視した生活支援  
分科会会長 神戸大学名誉教授、神戸学院大学教授 前田 潔 氏

### 第2部 パネルディスカッション(15:30～16:30)

テーマ:「医と産業の連携に向けた期待と展開」

座長

関西健康・医療創生会議議長 京都大学名誉教授、関西広域連合顧問  
井村 裕夫 氏

パネリスト(7名)

塩野義製薬株式会社 代表取締役社長 手代木 功 氏  
オムロン コーリン株式会社 代表取締役社長 小林 洋 氏  
京都府 副知事 山下 晃正 氏

(各分科会会長は第1部に引き続き登壇)

第1分科会会長 吉原 博幸 氏、 第2分科会会長 真鍋 俊明 氏  
第3分科会会長 細井 裕司 氏、 第4分科会会長 前田 潔 氏

主催 関西健康・医療創生会議

共催 関西広域連合、関西経済連合会、大阪商工会議所、京都商工会議所、神戸商工会議所、関西経済同友会